

MIT JAPAN 3/11 Initiative

110810

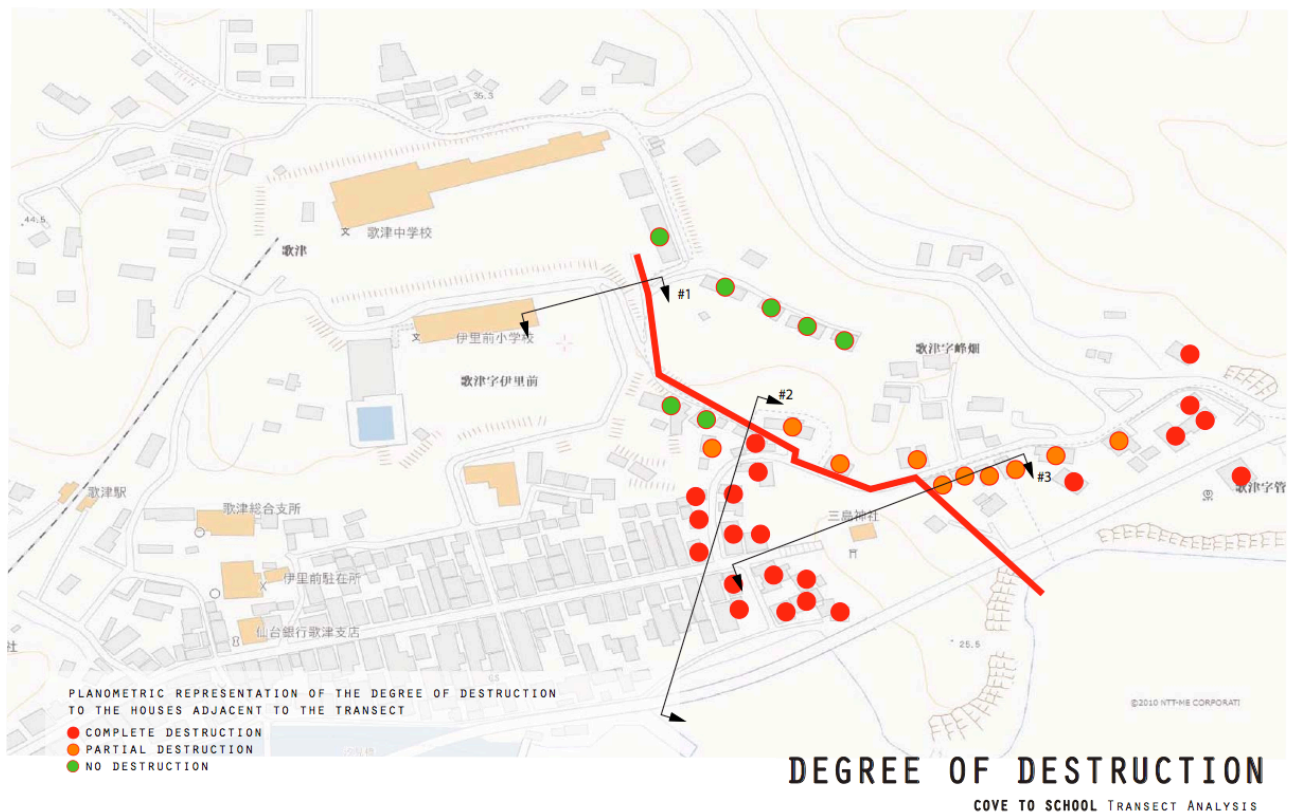
Phase01_2011夏期：

南三陸町歌津地区によせた第一期提案

南三陸町におけるオンサイトフィールドワークからコミュニティセンターの基本構想を、MIT、宮城大学、慶應義塾大学からの教授、学生の協同で3 Steps に分けて進めていった。

Step01 Rapid Visual Site Analysis

MIT の James Wescoat 教授指導のもとで、震災4ヶ月後未だ瓦礫の散らばった南三陸町歌津地区で、第一印象をもとに東西南北9カ所の Transect を切り取ることによって、断面的な考察を中心とした敷地調査を行った。様々な対象敷地に対して、個々それぞれの着手、分析方法によって、3日間にわたる現場での素早く詳細な歌津地区被害地の調査を行った。また同時に、地元住民の声を収めたビデオドキュメンテーションの作成も進め、復興への道のりを具現化する術を検討していく。



宮城県南三陸町歌津地区調査現場

調査・分析項目

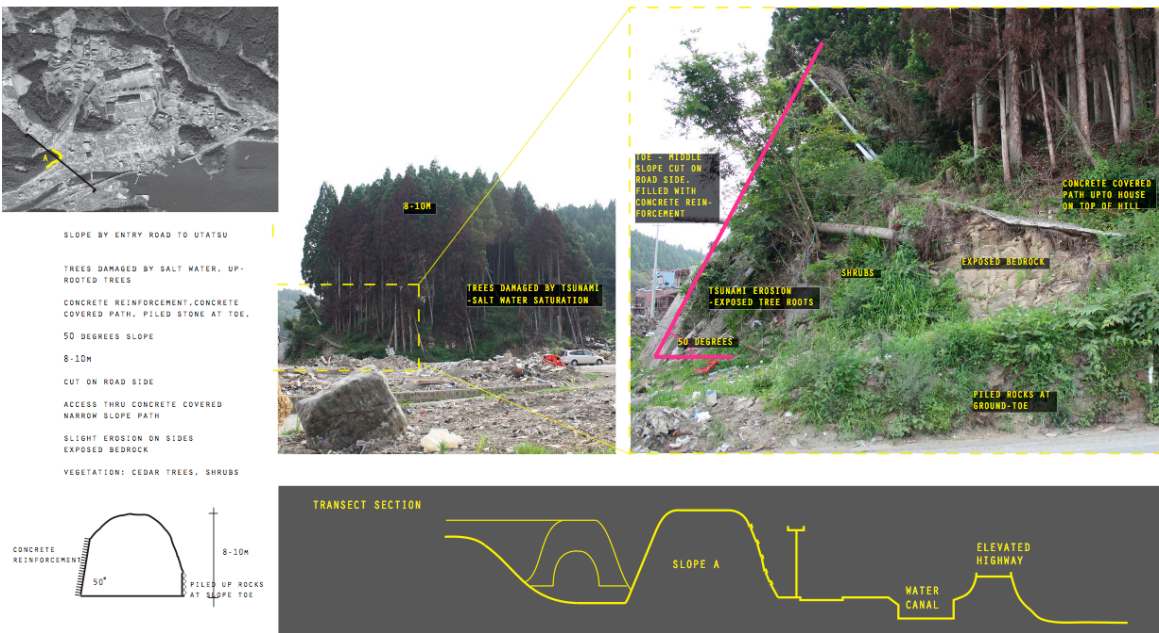
基本情報：面積 | 人口 | 土地利用 | インフラ、津波後の状況：瓦礫 | 瓦礫の素材 | 破損程度 | 植生、土地の形態：高台 | 沿岸 | 斜面 | 避難道 | 植生 | 地質、水系：排水路(深さ、幅、形態) | 洪水危険度

Step02 Site Selection for Community Center

一般的なそれとは異なる災害後の敷地分析においては、津波被害によってむき出しになったランドスケープからその”場の力”を読み取った。災害に対応する立地条件に加え、土地柄や歴史、高台と沿岸地区の関連などの観点から、いくつかのグループごとに現状分析を通してコミュニティセンターの敷地となる可能性をもった土地を選んだ。



SLOPE A - CEDAR TREE MOUND BY ENTRY ROAD TO UTATSU



敷地選択のための項目

安全性：立地高度 | 避難経路 | 避難所機能、コミュニティセンターとして：プログラム | 記念碑的性格、敷地特徴：視界 | 方角

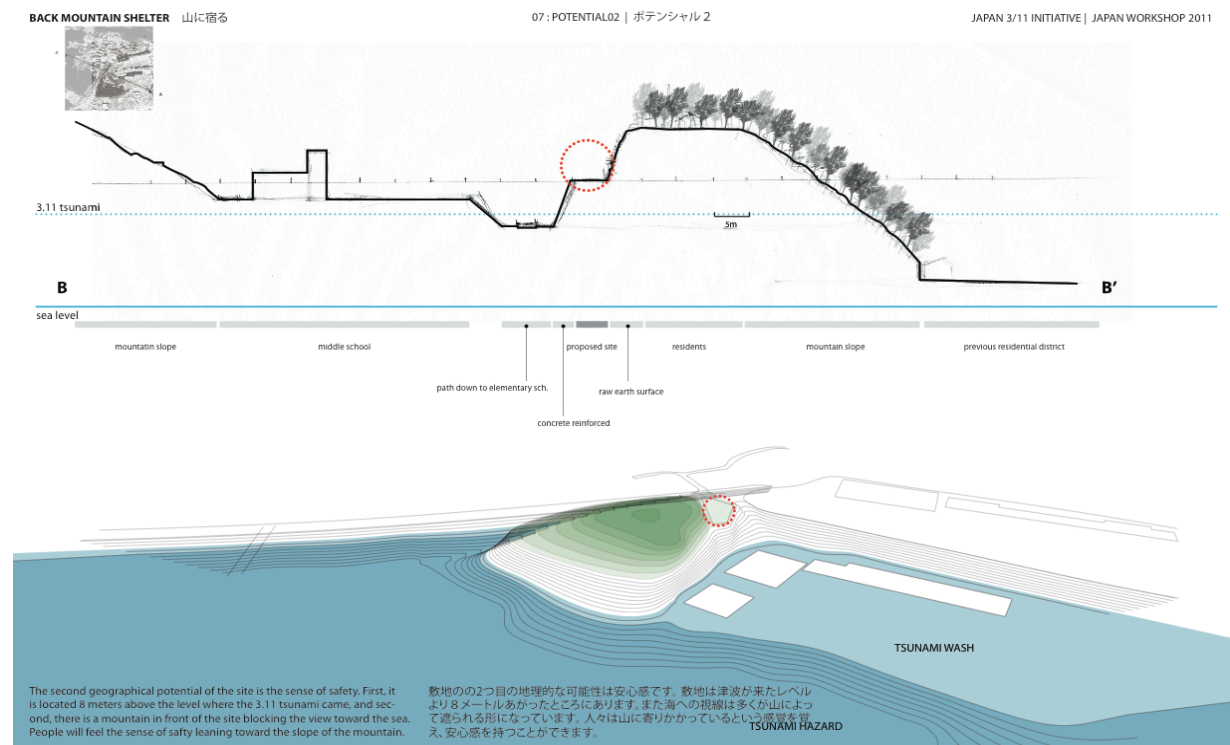
Step03 Community Center Schematic Design

MIT の神田駿教授、慶応大学の小林博人教授のもとで、復興にむかう現状の中で必要に迫られ、かつ震災の記念碑的存在にもなりうるコミュニティセンターの草案を次の2週間で作り上げた。歌津の数カ所に想定された敷地に、コミュニティセンターそのもののあり方を再考しながら提案をもとめた。まさに点在する数カ所の敷地の輪は、将来的にはそれぞれが関係しあった空間の集合として位置づけられる。

プログラムの決定

地震、津波に対応する構造、記念碑的性格、性別世代間をまたぐ交差点、地域資源の利用、地域経済への貢献。

インフォメーションセンター、保育所、介護施設、市場、作業場、公共浴場などの多様な機能を含む。



コミュニティセンター敷地図案

Phase02_2011秋期：

インターユニバーシティ実施設計コース MIT.iUP

Phase01 の Community Center Schematic Design の基本草案を下敷きとしたメモリアルコミュニティセンター設計スタジオ、その後部分的組み立てを現地で実施する。詳細はおってシラバスにて公開する。これらのPhaseは、今後3年間を通して継続される予定。